

うだぢから

「うだぢから」とは、宇陀に由来からある地域コミュニティの力(宇陀力)のことです。このコーナーでは、市が取り組む「まちづくり」やNPO団体などを紹介します。
 問 地域振興課 ☎82・3910/IP☎88・9094



▲講習会を真剣に見入る地域住民の方々

1 男女共同参画「人権学習会」

～西谷地区まち協～

2月4日、室生東部に位置する西谷地区で「男女共同参画」をテーマにした「人権学習会」が行われました。今回は、西谷地区へ移住し日々活躍されている女性お2人を講師として迎えました。

1人目の方は、市でも2人しかいないという「女性の猟師」さんで、罾を仕掛けるところから、加工・販売まですべて自身で行われています。

男性でも厳しい狩猟の世界での「ジビエ(野生動物の肉食文化)」を目的とする理由や、食肉にするための処理方法、また師匠や地元住民との出会いなど、興味深い内容でした。

2人目の方は、男性が多い職種「大工」さんで、大工になるまでの人生の道のりを、時に冗談も交えつつ、熱い思いを聞かせていただきました。

2人とも男性が多い職種の中での難しさや仕事に対する想い、考え方、また地域住民との交流など、盛り沢山な内容のお話を

2 青越え伊勢街道勢

「大野寺への道標」

～室生大野まち協～

令和3年8月中頃、地域住民より「近鉄室生口大野駅南側の四つ辻にあった道標が倒されている」との報告があり、当初より「当まち協で修復できないものか」と事業検討をしてみました。



▲道標が倒されている!!

時期・天候などの事情で事業が保留となっていました。昨年12月と今年2月のうち2日間にわたり作業が行われ、見事に修復することができました。

この道標には、「石佛彌勒(せきぶつみろく)」「楊龍山(ようりゅうざん)」「御長(ごなが)」「春日(かすが)」と文字が刻まれており「楊龍山」という文字が「楊柳山(ようりゅうざん)大野寺」を示し、近くには伊勢街道もあることから、お寺へ立ち寄る参拝者への道標だったのではと思われれます。

当時、道標は根元から折れており修復が難しい状態でしたが、折れた部分の両面を精密に測りながら、芯となる2本の鉄棒を刺し合せて接着しました。



▲元どおりに修復できました。

本来の姿に戻った道標は、綺麗になり文字もはっきり視認できるようになりました。

3 9か国の行政官が、ネクストコモンズラボ奥

大和の起業家支援を視察

2月21日、JICA(国際協力機構)の研修プログラムで日本滞在中の皆さんに宇陀をご案内しました。エジプト、モンゴル、タジキスタン、カンボジア、ツバル、エチオピア



▲みんなでハイ、チーズ

ア、マイクロネシア、タンザニア、ジャマイカと実に9か国から観光庁等の行政官が視察のために

宇陀へ。「持続可能な観光地域づくりのための人材育成研修」の一環という事で、宇陀での起業支援の取り組みや起業メンバーの事業を紹介しました。

ネクストコモンズラボ奥大和のメンバーからは入江さんと宮本さんが登壇し、薬膳カレー店とリノベーション工事中のカフェを現地見学。また、金剛市長にも交流時間をつくっていただき、宇陀のまちを紹介していただきました。

世界の色々な価値観と視点で宇陀をみていただけるのは嬉しいです。メンバーにとっても気づきの多い機会となりました。



▲入江さんのお店 薬膳カレーでのひととき



シオアラブラ

コシアブラは、山野に自生する落葉高木で、葉には長い葉柄があり、5個の小葉が手のように広がっています。秋に紅葉せず、葉の色が白くなり透き通ってきます。従って、その時期に山で見ると、カエデ類の紅葉の中で際立って見えます。目印でも付けておくと、春に採集しやすいでしょう。

昔は、この木から樹液を採り、こして塗料(金属のさび止め油)に使ったので、

コシアブラの名前が付けられたのです。

採集適期は長く、採集の仕方や場所にもよりますが、山の中では七月ごろまで採集できる所もあります。若芽を食べると、強壮作用があると同時に、血圧降下作用があるケンフェロール、イソクエルシトリンなどが含まれているので、高血圧にもよく、ぜひとも食べてほしい山菜です。



「薬草道遙(やくそうしやうよう)」
 毎回「薬草」に関する内容を連載でお届けするコラムです。

※当市で「薬草活用講演会」をしていただいた村上光太郎先生の連載より一部抜粋

問 商工業課 ☎82・5874 / IP☎88・9075